

# クリエイティブ志向とエシカル消費

——「21世紀の消費生活に関する調査」を通して（2）——

日本学術振興会 畑山要介

## 1 背景と目的

エシカル消費は、利他性や社会貢献意識に導かれた規範的行為であると理解されてきた一方、それは個人のライフスタイルや自分らしさの追求に導かれた自己実現的行為なのではないかという理解も台頭してきた。エシカル消費は利他的なのか、それとも利己的なのかというこの種の問題は、いまや「利他の利己への織り込み」の問題へ、すなわち個人の自己実現のなかに利他性や社会貢献意識がどのように織り込まれているかという問題へと発展しつつある（畑山 2016）。

本報告では、こうした織り込みの位相を捉える概念として「クリエイティビティ」に着目する。クリエイティビティは、新たな発見と創造によって文化や産業にイノベーションを引き起こす能力とされるが、その能力が環境や社会に配慮したライフスタイルと密接に関係していることは「カルチュラル・クリエイティブズ」などの概念化を通じて以前から指摘されてきた。また、R.フロリダによれば、クリエイティビティは個人のライフスタイルの形成においていまや重要な要素となっており、その創造的ライフスタイルは寛容性と多様性といった価値と密接に関連している（Florida 2011=2014）。

創造的なライフスタイルの追求を原動力とする環境的・社会的配慮というモデルは現代日本社会においても妥当するだろうか。本報告では、新しいアイデアや創造性を追求する「クリエイティブ志向」がエシカル消費を促進するか否かを検討するとともに、他の要因とどのような相互作用を持つかについて検討し、そのなかで「利他の利己への織り込み」のひとつのあり様を考察していく。

## 2 方法

本報告では、2016年に実施された「21世紀の消費生活に関する調査」によって得られたデータをもとに、エシカル消費を従属変数とした重回帰分析を行う。「エシカル消費」には、環境配慮消費、オーガニック消費、フェアトレード消費の3変数の合成スコアを使用する。独立変数には基本属性とともに「クリエイティブ志向」、「脱物質志向」、「個性志向」、「利他志向」といった意識変数を投入し、それらの効果を比較する。

## 3 結論

重回帰分析の結果、クリエイティブ志向がエシカル消費に対して有意な正の効果を持つという結果が得られた。ただし、その効果には年齢による交互作用が顕著であるということも明らかとなった。そこで年齢層別に分析したところ、年齢の高い層では利他志向が大きな効果を持つが、逆に年齢の低い層では利他志向の有意な効果は認められず、その効果はクリエイティブ志向の効果に回収されることが示された。若年層においては、クリエイティブな価値の追求のなかに利他が織り込まれることでエシカル消費が促進されていると考えられる。

## 文献

Florida, Richard, 2011, *The Rise of the Creative Class, Revisited*, New York: Basic Books. (=2014, 井口典夫訳『新クリエイティブ資本論——才能が経済と都市の主役となる』ダイヤモンド社.)  
畑山要介, 2016, 『倫理的市場の経済社会学——自生的秩序とフェアトレード』学文社.